

運転士を対象とする安全に関する工夫の 実践を促す研修の開発

芦高 勇気

渡辺 めぐみ*

福馬 浩一

大谷 総一郎

* 常磐大学人間科学研究科

1 はじめに

労働力不足によって、就業者の持続的な活躍は社会的に重要性を増しています。昨年度は、経験と年齢を重ねることによる業務への影響を調べました¹⁾。今年度は、経験と年齢に応じて運転士が持続的に活躍し続けることを支援するため、新しい研修を開発し試行を行いました。この研修は、運転士が互いの多様な特性や知識・経験を理解することで、自身の特性に合わせた工夫を振り返る内容としました。この仕組みにより、ヒューマンファクターの視点から自身の特性への気づきを促し、安全に関する工夫の実践を目指しました。

2 研修の開発

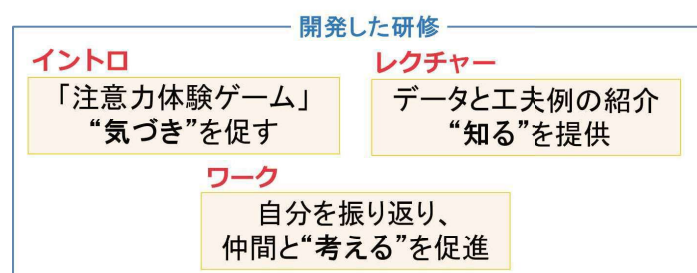
2.1 課題

運転士の特性は、業務の経験の多様性に加えて、加齢による認知機能の変化の多様性の影響²⁾も受けるため、一人一人異なるものと考えられます。そのため、個人差を踏まえ、安全に関する工夫を主体的に考え、実践できる研修を開発しました。

2.2 研修の構成

本研修は、受講者が自分自身の特性への“気づき”を起点に、「自分に合った工夫」を振り返りながら考えられるよう設計しています。図1は研修の構成を示しています。研修はイントロ、レクチャー、ワークの3つのパートに分けて構成しました。

図1 研修の構成



研修により、工夫の“動機”に**変化が生じる**ことを促す。
その結果、**行動が変わり、実践につなげる**。

(1) イントロ

はじめに、参加体験型の簡単なゲームを行います。これにより、受講者が自分の特性について客観的な気づきを得ることを促し、関心を高く持って研修に臨めるようにしました。

(2) レクチャー

講義形式で運転業務における年齢や経験の影響・特徴を分かりやすく解説します。例えば、当社の運転のエラーに関するデータを抽出して年齢別に示すなど、より身近な実例で理解をしやすいものにするなどの工夫を行いました。

(3) ワーク

個人ワーク（運転に関する自身の工夫を振り返る）とグループワーク（他の受講者の工夫を聞き、意見交換）を組み合わせで行います。これにより、受講者が自身の行動や考えを見つめ直し、実践的な安全につながる工夫を共有できるようにしました。

2.3 試行実施

本研修は、様々な年齢や経験を持つ運転士 10 名を対象とし試行を実施（2025 年 11 月）し、その後自分の特性に合う工夫を試すなどの実践につながることを示唆されました³⁾。図 2 は実施風景です。また、今後の活用に向けて改善の課題も明らかになりました。この試行は、安全研究所実験等倫理委員会の承認を得て実施されました（申請番号 25-6 号）。

図 2 本研修のグループワークの様子



3 まとめ

運転士それぞれの経験や特性に応じて安全につながる工夫を高める研修を開発しました。改善を加えて社内の研修システムに登録する予定です。

【文献】

- 1) 芦高勇氣・渡辺めぐみ・福馬浩一・大谷総一郎. 業務への加齢による影響の自覚とその工夫: 高年齢の鉄道係員を対象としたアンケート調査. 日本心理学会第 89 回大会発表論文集, 2A-107-PQ, 2025.
- 2) 中村竜・佐藤文紀・増田貴之・北村康宏・藤道宗人・斎藤綾乃. 加齢による運転士の作業の負担感の増加と関連する機能. 鉄道総研報告, 38(6), pp. 37-43, 2024.
- 3) 芦高勇氣・渡辺めぐみ・福馬浩一・大谷総一郎. 鉄道運転士を対象とした普段の工夫を振り返り考える研修の実践報告, 日本人間工学会第 67 回大会講演集, 印刷中.